

第1回福岡市食育推進計画検討部会 議事録

1. 日 時：令和3年7月20日（火） 10:00～11:45

2. 場 所：アクロス福岡5階 501会議室

3. 会議次第

- | |
|--------------------------------------|
| 1 開会 |
| 2 議題 |
| (1) 部会長・副部会長の選任について |
| (2) 第3次福岡市食育推進計画の評価について（資料①、②を用いて説明） |
| (3) 次期福岡市食育推進計画（案）の策定について（資料③を用いて説明） |
| 3 閉会 |

4. 出席委員：6名

欠席委員：1名

5. 報道機関取材者及び傍聴者

報道機関：無 傍聴者：無

6. 議事内容

事務局	【議題：部会長・副部会長の選任について】 部会長：中村学園 甲斐委員 副部会長：福岡市食生活改善推進員協議会 下川委員
事務局	【議題：第3次福岡市食育推進計画の評価について】 「福岡市食育推進施策事業一覧（令和2年度実績・令和3年度予定）（資料1）」及び 「第3次福岡市食育推進計画成果指標別シート（資料2）」について説明
委員	資料2の「①食育に関心を持っている市民の割合」の数字が伸びていないが、「⑥食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している」や「⑩環境に配慮した食生活を送っている」は数字が高い。このことから、食に関心のある人は多いが、食育となると食に関心のある人を育てないといけないというイメージがあり、それが出来ていない

事務局	<p>ため数字が下がっているのではないかと思う。食育となると言葉の理解がしにくくハードルが高いように感じる。アンケートの質問方法に工夫が必要だと思う。</p> <p>食育については、子どもが学ぶもので、大人は教える側という捉え方をしている方が多くいるのではないかと思っている。アンケートの質問方法を工夫することが出来るかと思うが、前回この項目を設けた背景としては国も同様の目標値を立てており、福岡市もそれを踏まえた経緯がある。</p>
委員	<p>食育という言葉が子ども向けの言葉と捉えている方が多いと思う。高齢者は食育と聞いただけで自分には関係ないという考え方を持っている人が多い。食育という言葉よりもみんなが分かりやすいロゴや言葉に変えてもよいのでは。そういうものがテレビやCMで流れると色々な世代に伝わっていくのではないか。</p>
委員	<p>前回頂いた資料に目を通すと公民館という言葉が出てこない。公民館は福岡市に148館あり、乳幼児のおやつ作りや高齢者の生活習慣病予防の料理等、料理教室は大人気で食育の活動を多く行っている。行事食というところでも、地域のお祭りや餅つき大会などに大きく貢献しているが、第3次福岡市食育推進計画には公民館という文字がなく、国の第4次食育推進基本計画の資料に1カ所のみ記載されているだけである。これだけ貢献しているが資料に反映されていないので、今後工夫が必要である。</p>
委員	<p>福岡市食生活改善推進員協議会は、公民館や自治協議会と協力しないと活動ができない。保健所で学んだことを、会員に共有し、公民館などを通じて地域住民へ伝達していくことが事業の内容である。こういう地道な活動が大事だと思う。各区で公民館や自治協議会と協力体制をしっかりと地域住民に働きかけ、普及していかないと広がらない。</p>
委員	<p>「①食育に関心を持っている市民の割合」について、働き世代に関心を持っている人が少ないのではと説明があったが、福岡市の職員は1万人ほどいると思うが、職員の中ではどのようなになっているかデータを知りたい。</p> <p>「⑦高齢者で主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べるのが週に3日以下の市民の割合（70歳以上）」について、福岡市の高齢者の特徴としては独居老人が多いと思うが、アンケート結果で独居老人に関してはどのようなデータが出ているか。</p> <p>「⑩よく噛んで食べている市民の割合」については、現状54.4%という数字が出ているが裏を返せば約半数の方は、よく噛んで食べることができないという裏返しのデータといえる。</p> <p>その中でよく噛んで食べることができる環境づくりが必要だと思うので、食育の中で聞ける内容か分からないが、年に1回健診に行っているかを聞いてもらい、口腔健康</p>

	<p>管理、特に口腔機能を構築してもらうことが基本情報になると思う。「よく噛んで食べる」ということは2回噛んでも10回噛んでも本人の意識次第となるので、次は質問の方法を変えてみてはと思う。</p>
委員	<p>保育園では、市の献立に基づいて調理しており、もともと薄味のため、食塩をとり過ぎについては大丈夫だと思う。噛むことに関しては、30回噛もうねと歌などで園児に声かけをしているが、先生自身は忙しくてゆっくり噛んで食べられていない。園児についても飲み込んだり、早く遊びたい、次があるということから噛むことを教えることが難しい。朝食については、家庭環境が夜型で夜遅くに食事をするため、朝食べられずジュースだけや甘いものだけという園児がいる。砂糖どれだけとったら体へ影響あるかを食育ボードやプリント等で啓発活動を行っている。お迎えに来る中学生や高校生については、塾で夜が遅くなり朝ごはんが食べられていない。生活リズムが一番だと思っている</p>
委員	<p>随所にインターネットやSNSといった言葉が出てくるが、具体的にどのようなことを指しているのか。どのように、食育の情報へアクセスできるのか。</p>
事務局	<p>若い世代に関しては、比較的、アクセスする傾向にあると考えている。福岡市として、SNSを使った情報発信はしている。アクセスしてもらわないと繋がらないため、情報を探している人に引っかかるような発信の工夫も行っている。</p>
委員	<p>発信者と受信者の間が断絶している気がする。これが大きな課題かなと思う。</p>
委員	<p>働いている、子どもが小さい、時間がないといった保護者へ食育を訴えていくことは、食品産業（企業）との連携がないと難しいのでは。</p> <p>5年前からの労働力市場の状況と比べてみると、働いて忙しい保護者が多いため、サポートしていくため、健康安全に配慮した時短料理のための食材開発等を行うなど考えていかなければならないと思う。</p>
委員	<p>コロナの影響により外食が減り、テイクアウトやUber Eatsなど増えたが、自分の好きなものだけを食べることになるので栄養面が心配。</p> <p>共食という言葉が資料で目にするが、コロナの影響により料理教室や子どもたちが楽しみにしているお祭り等の食べ物に関する事業が全くできていない。高齢者の方についても、皆さん家に閉じこもりでなく出てきたいと言っているが、高齢者のサロンなどもリスクが高いため、ほとんど中止になっている。コロナの前に高齢者のサロンで出す食事についてリクエストを募集したところ、一人暮らしの方から「ジャガイモやニンジンが入ったカレー」という意見が多くあった。みなさん、家でレトルトカレー</p>

	<p>を食べるので、家で作ったような具の入ったカレーが食べたいということであった。今は、コロナ禍で事業が中止になってしまっているため、コロナ禍でありながら、料理教室やサロンといった集まりをどうしていくのかということも課題の1つだと思う。マスクの着用や三密を避けるといった感染対策をした状況で開催することができれば、全体の数値も変わってくるのではないと思う。</p>
委員	<p>5年前は個食ではなく共食をすすめていたが、現在は逆になっている。5年後はどうなっているのか、今後はどのようにしていくかは判断が難しい。</p>
委員	<p>「⑩学校給食における市内産農林水産物利用割合（農畜産加工品）」「⑪学校給食における市内産農林水産物利用割合について(水産物・加工品含む)」について、まず目標値すごく低い。また策定時と比べ現状値が大きく増えたのはなぜか。学校給食は生きた食育の教材であり、栄養教諭も全中学校ブロックに配置されているので、いろいろな工夫をして、その中で市内産のものが使われると子どもたちの興味関心が深まるのではないと思う。</p>
委員	<p>160万の人口に対し、市内産の農産物の供給量はすごく少ないので、しかたがない部分はある。野菜について言えば、福岡市内産は卸売市場の4%くらいしかない。</p>
事務局	<p>数値の部分については、担当部署に確認した上で後日回答する。</p>
委員	<p>毎日野菜をたくさん食べている数値が高かったが、たくさん感覚が1人1人違っている。毎日350gの野菜を食べようと言われているため、350gという数字を明記した方がいいと思う。また、350gの野菜がどのくらいかお知らせできるものがあればいいと思う。</p>
委員	<p>ただ野菜を350g食べるのではなく、1皿70gをバランスよく食べるのが大事。そのようなことも働きかけができたらいと思う。</p> <p>先日講習を受けたが、企業と連携して、一人一人が意識しないで健康や減塩などが自然にできる環境になることが、これからの狙いではないか。</p>
事務局	<p>【議題：次期福岡市食育推進計画（案）の策定について】</p> <p>「次期福岡市食育推進計画（骨子案）（資料3）」について説明</p>
委員	<p>SDGsについて歯科医師会も2030年まで支援していきたいと考えている。せっかくいいものができても情報配信と拡散ができなければ意味がない。歯科医師会としてはホームページのバナー広告で協力したいと考えている。また各団体のホームページでバナー広告入れてもらうなど、いろいろな団体に声をかけてもよいのではないか。</p>

委員	学校給食における市内産農林水産物利用割合について、福岡市の供給量が少ないなかで、市内産に限定する意味があるのか。市内産、県内産に変更してもよいのでは。
委員	目標の「④環境に優しい食べ物を選び、もったいないをなくしましょう」について、「もったいないを念頭におきましょう」なら分かるが、言葉がおかしいのでは。
委員	「もったいない」という言葉が、一時流行になり、今は独立した言葉になっている。「もったいない」にカギカッコをつけたらいいんじゃないか。
委員	「もったいないをなくしましょう」は「残さず食べましょう」と聞こえる。
委員	正反対のどちらの意味でもとれるので、混乱を招くのでは。
事務局	全体の文言について今後検討する。
委員	インターネットで料理動画などたくさんあるが、塩分など計算されない美味しいものを食べられる内容になっている。食生活改善推進員協議会の活動は、塩分やカロリーなどを計算したレシピを基に、地域に発信している。その違いを、今後も伝えていかなければならないと思っている。
委員	DXについてはよいのか
委員	数値目標に関しては、市民運動として推進するにふさわしい目標ということで、市民1人1人が取り組めるものを掲げることを趣旨としているため、DXのような課題については案としていない。
事務局	今回の資料については、今後の方向性を示したものなので、今後検討部会で出たご意見を反映していく。 (議事終了)